



「歌謡チャンピオン大賞」で優秀賞を受賞した栗田國昭さん

4/2 歌謡チャンピオン大賞で優秀賞

松山春まつり「第27回歌謡チャンピオン大賞」(主催：松山市)に出場した栗田國昭さん(長月)がチャンピオン大賞に次ぐ優秀賞を受賞しました。大会には県内外から180人が応募、テープ審査と公開審査を通過した22組が決勝大会で歌声を競い合いました。

友人から薦められて参加したという栗田さんは「決勝大会進出が決まったときには本当に感動した」と振り返りました。

栗田さんが普段活動している愛南カラオケでは、栗田さんの受賞を記念して6月24日(土)に御荘文化センターでチャリティ歌謡ショー(入場無料)を開催する予定です。

4/27 世代超え協力して田植え

篠山小中学校で恒例の田植え授業が行われました。今年は、小中学生33名と地域住民に加え、南宇和高校から6名の生徒が参加しました。曇り空の下、生徒たちは約1時間かけて6アールと4アールの田にそれぞれうるち米ともち米の苗を植えました。

5年生の山本彩羽さんは「4年生のときより、みんなが協力して早く終わらせることができた。来年はもっとたくさん植えられるようになりたい」と笑顔で話しました。



地域の方に教わりながら苗を植える篠山小学校の児童

あんなことや、
こんなこと—TOWNコミュ

本日!海日和!! vol.79

「物まね王者決定戦」



ノコギリハギ(無毒)



ハナキンチャクフグ(有毒)

フグは毒をもっている魚だということを知っている方も多だろう。この毒は、大きな魚に食べられないように備えているものらしい。大きな魚もこのことをよく知っているようで、フグを襲うことはないようである。

このことをちゃっかり利用しているのが、ノコギリハギである。このハギは、毒をもつキンチャクフグの仲間とよく似ている。見慣れると泳ぎ方や模様が少し違うのだが、見分けるのは難しいかもしれない。大きな魚も、ノコギリハギを、毒のあるキンチャクフグの仲間と思い込み、襲うことはないらしい。

このように強い生き物に姿や模様を似せて身を守ることを擬態と言う。ノコギリハギはキンチャクフグの仲間が毒をもっていることを知っていて姿をまねたのだろうか。それとも、偶然似ていたから生き残ることができたのだろうか。科学が進んだ現在でも海の中は不思議であふれている。

(撮影地：鹿島)

愛南サンゴを守る会 西尾知照

5/ 6 家族で楽しむ釣り大会

自然豊かな愛南町で家族で釣りを楽しんでもらおうと、福浦一文字防波堤で「愛南ファミリー釣り大会 2017」(主催:愛南町観光協会)が開催されました。

8回目の開催となった今大会には、町内外から24組85名が参加して3匹の総重量で競いました。

当日はあいにくの小雨となりましたが風もなく、穏やかな気候で絶好の釣り日和となりました。東温市から参加してグレを釣り上げた小野植巧真くん(小学6年)は、「引きが強かった。魚がかかって釣れたときが嬉しい」と釣りを楽しんでいました。



カワハギを手に笑顔の山辺さんファミリー (伊予市)

5/ 8 児童が早乙女姿で田植え

柏自治会が主催する「お田植え祭り」が金峰神社の近くの神田で開催され、柏小学校の4～6年の女子児童13名が豊作を願って早乙女姿で田植えを行いました。

「お田植え祭り」は今年で29回目。児童らは保護者や地域住民らが見守るなか、約1時間かけて3アールほどの田にもち米の苗を植えました。

はじめての田植えを経験した4年生の松原渚海さんは「はじめは少し難しかったけど、だんだん楽しくなった」と笑顔で話しました。



早乙女姿で田植えを行った柏小学校の女子児童

5/ 10~11 小学校に道化師がやってきた

城辺小学校、船越小学校の両体育館で「劇団風の子講演」が開催されました。

これは舞台芸術の楽しさを子どもたちに伝えようと、うちうみまちづくり連合「Yomoshi連内海」が開催したもので、11日は、船越、福浦、中浦の3小学校の児童と船越保育園の園児ら約70名が、本格的な道化師のコメディを楽しみました。

講演後、杉本琳香さんが「あっという間に時間が過ぎました。人を笑わせる魅力を感じました。また来てください」とお礼を述べました。



道化師のパフォーマンスに目を輝かせる子どもたち

5/ 16 保育所跡地にバラ園が誕生

旧東海保育所の敷地内にできたバラ園のバラが見頃を迎え、鑑賞会が行われました。岩水地区では保育所跡地を有効利用しようと4年前にバラづくりの名人である宮谷俊彦^{としひこ}さんにバラづくりを依頼。東海公民館の婦人学級(13名)が宮谷さんに教わりながら50種類のバラを育てました。

婦人学級の澤近和子^{かずこ}さんは「野ばらの種からはじめて4年で鑑賞会が開けるようになった。来年も続けていくのでたくさんの方に見に来てほしい」と話しました。



旧東海保育所の敷地に誕生したバラ園

5/ 17 福浦小児童がヒラメ放流

福浦小学校の児童が福浦湾にヒラメの稚魚6,600尾を放流しました。ヒラメの放流は、海の資源を増やそうと公益財団法人えひめ海づくり基金が愛南漁協と協力してこれまでも毎年実施していましたが、今年は福浦小学校のコミュニティ事業の一環として児童が放流しました。児童らは、約8cmに成長したヒラメの稚魚に「大きくなってね」と声をかけながら次々と海に放ちました。

4年生の中野幸村^{ゆきむら}くんは「ヒラメの稚魚は、裏が透けていてびっくりした。早く大きくなってほしい」と話しました。



ヒラメの稚魚を放流する福浦小学校の児童

5/ 17 「広報あいなん」の タイトル文字を作りました

今月号の表紙から「広報あいなん」のタイトル文字が変わりました。制作したのは、南宇和高校美術部3年生の飯田雛子^{ひなこ}さんです。

普段の部活動では、ファッションデザイン画を制作して専門学校などが主催するコンテストへ応募しているという飯田さん。その作品は、優秀賞を受賞するなど高い評価を受けています。

「広報あいなん」のタイトル文字は、約1か月かけて制作。文字の形を愛南町の町章からイメージし、特産の愛南ゴールドを取り入れて町の特徴を表現しました。飯田さんは「町の温かい雰囲気が伝わればいいと思います」と笑顔で話しました。



広報あいなんのタイトル文字を制作した南宇和高校美術部の飯田雛子^{ひなこ}さん